

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503932		
法人名	株式会社ジェイ・ライフ		
事業所名	グループホーム かわしも公園 (1F)		
所在地	札幌市白石区川北2条3丁目7番13号		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月 18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivovyoCd=0170503932-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と寄り添って生きるとはどのような意味なのかをスタッフとともに考える機会を定期的に持ち、入居者様を一個人として、敬意を持って接するように啓蒙しています。そこから入居者様、ご家族様とスタッフとの信頼関係を育て、少しでも、本音を聞ける様に努めています。また認知症、それ以外の病気にしてもそれぞれの専門医との連携に努め、当ホームで可能であるケアの最善を心掛け、同時にご家族様への連絡、情報の報告もリアルタイムでの報告を心掛け、少しでも安心して頂けるよう努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設後9年を迎え、これまでのノウハウが蓄積され、グループホームが目指すべき姿に近いホームである。自立支援や利用者一人ひとりの思いを具現化するために、管理者がホームの理念を職員に周知・理解させる取り組みを継続して行っている。その結果、利用者目線に立って、利用者が望んでいることの実現に向けて、職員間で随時話し合いを行いながら支援が行われている。
 利用者は、それぞれ自由に過ごすことができ、職員は必要に応じたサポートを行っており、利用者主体のホームである。
 ホームに閉じこもりがちにならないよう、職員体制を工夫し、利用者それぞれが希望する場所(野球観戦、競馬観戦、買い物など)への外出の機会を多く作っている。
 今後の課題としては、以前は近隣が空き地であった土地にも住宅が建ち、新しい住民とはまだ十分な交流ができていないとのことであり、さらに地域に根ざしたホームを目指し、積極的な交流の機会を働きかけていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り等のミーティング時でも理念に基づき具体的な考え方や行動を浸透させるように心がけています。	毎月行われている勉強会において、理念の実現のために、どのように対応するべきかについて、職員一人ひとり、自身の考えを報告させ、実践へとつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事への参加は基より、ホームの行事にも積極的にご家族様、地域住民の皆様にお声掛けを継続しています。	これまでの地域への積極的な働きかけにより、近所の子供、保育園児、高校生などの訪問や、町内会行事への参加など日常的な交流の機会が増えてきている。	近隣に新しい住宅が増えてきており、その住民とは、まだ十分に交流が図られていないとのことであり、今後、交流の機会を積極的に働きかけていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の身内の相談や、町内会経由の認知症サポーター養成講座の講師等地域との関わりが徐々に増えています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を良くも悪くも包み隠さず報告し、時に厳しいご意見も頂きながら、運営方針のご理解とご協力を頂いています。	運営推進会議において、ホームの運営実態の報告を行っており、参加メンバーからホームの運営実態については理解されている。	会議の日程が運営推進メンバーの意向で決められることが多く、家族の参加が難しく、今後、家族も参加しやすい日程・時間も設定することを期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録の提出も継続しており、連携を保っています。	行政関係者への運営実態の報告は定期的に行っており、協力関係は出来ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束関連の資料をまとめ、職員に公開し徹底しています。	身体拘束に関する勉強会を定期的開催している。マニュアルも策定しており、職員間で徹底されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関連する資料をまとめ、職員に公開し徹底しています。			

グループホーム かわしも公園 (1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターの相談員かとの連携、各勉強会で折に触れ学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際十分な時間を頂き、説明をさせて頂いています。またご質問等があるときは、随時ご理解頂ける様に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の要望等があれば報告し、どのような対応をしたかのご報告をしています。	家族が来訪した時に直接意見・要望を聞いている。電話連絡などの機会においても同様に意見を聞いている。意見・要望については、ホーム内で対応策を検討し、実践している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット責任者からの提案、行事の企画等も職員が入居者様のご希望を聞いて立案するようにしています。	管理者からの上位下達でなく、会議の場や、必要に応じて個別面談の場を設けて職員の意見・要望を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年就業規則を改定し、全ての日中の勤務時間を30分短縮するなど、常に雇用条件等の改善を心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回のユニット会議での研修の他、ほぼ毎月2か所の外部勉強会に参加し、知識を深める努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、地域のボランティアグループに参加等、ネットワークの構築、相互協力に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は環境に慣れな為、特段の配慮を心掛け、名前は分からずとも、顔は見た事があると認識して頂く様、関わっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、当ホームはご家族様への連絡、報告は細かくさせて頂く旨を説明しご了承頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態、既往歴等を考慮し、必要な医療機関との連携をとっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様 の関係について折に触れ、単にしてあげる、してもらう関係では無く、出来なくなる様にならない様に支援する事を心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、行事参加の声掛け、入居者様からのクリスマスカード、年賀状の送付は基より、自宅への外出援助、ご家族様への電話等、ご家族とのつながりを保てるあらゆる手段を考え、実行しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様了承の元、電話、手紙等、ご本人様の意志を最大限尊重しています。	家族の了承を得た上で、クリスマスカード、年賀状の送付など、家族との交流の機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2～3人でのお手伝いやレクリエーション等を通じ、同居人として気軽に声を掛け合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談されたり、お声掛けを頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に入居者様の担当を割り振りし、担当者中心に信頼関係を築ける様配慮しています。	ホーム本位でなく、利用者の立場に立って、利用者が望んでいることを第一に考えて日々支援が行われている。それを実践するために、利用者の生い立ちなどを深く知ろうとする努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員との世間話には、ご家族様も知らない情報がある場合が少なくないので、記録するように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの時間でも、入居者様との関わりを持ち、日々の変化に敏感になるように心掛けています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が介護計画とモニタリングに関われるよう、会議を定期的に行っています。	入居者一人ひとりの生活歴や、入居者自身にとって何が必要であるのかに着目し、ケアプランを作成している。プラン作成においては、担当職員一人ひとりの意見も反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化も気づける様、職員に声掛けを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人の為の行事、野球観戦、競馬、自宅外出等、勤務調整してでも対応させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用、宝くじの購入等、個人の希望を最大限具現化出来る体制を心がけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	主治医の必要な情報の取りまとめ、整理を心掛け、緊急時に備えています。それと同時に、ご家族との連携も随時行っています。	かかりつけ医とは、いつでも連絡が取れる体制ができており、入居者の体調変化時などには、随時相談を行い、適切は指示、アドバイスを受けることができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師は医療機関との連絡窓口となり、職員に必要な情報、対応を記録しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に限らず、情報交換は常時行っており、主治医も協力的です。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明時に重度化した場合や終末期のあり方について、説明了承を頂いてますが、ご本人の状態がいよいよ迫って以下場合、再度の意思確認を行っています。	重度化への対応方針に基づき、家族・医師と連携しながら、家族の意向があれば、看取りを行う体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防主催の救急救命講習等に参加し、職員に周知徹底を計っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行う際、職員の動き方等を説明、徹底しています。	定期的な避難訓練の他、日常においても、火災や地震などの緊急時の対応について確認を行っている。	災害時には、近隣住民の協力が必要であり、緊急時にも協力が得られるよう、まだ交流の機会の少ない近隣住民に対して、交流の機会を働きかけていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの介護職員の基本だと考えて、折に触れ、具体的に話し合っています。	利用者の人格、プライバシーには十分に配慮した温かみのある声かけや支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方その方の選択可能な方法を考慮し、自己決定をして頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は目先の業務に気が行きがちなので、優先順位を常に確認するように話合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服等も、職員が決めるのではなく、選んでもらっています。		

グループホーム かわしも公園 (1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のお手伝い、後片付け等、「させられている」意識を持たない様な声掛けを心がけています。	各テーブルに職員が分かれて、利用者が食べやすいよう適時サポートを行っている。食事の準備や後片付けは、能力に応じ行っている。入居者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が作成しています。水分も水分摂取表に書き込み、いつでも分かる様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けと出来ない所の支援を毎食後行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居された際、最初に取り組む項目です。	自立排泄に向け、利用者の排泄パターンを掴み、職員はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が行われている。おむつを利用している利用者はおらず、パットでの対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理の徹底を職員に意識付けしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中の入浴に限らず、夜間入浴も継続しています。	決まった時間だけの入浴でなく、夜間浴など利用者本人の意向に沿った入浴支援が行われている。それを実現するために、フリーで動くことができる職員を1名配置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時の室温、湿度、騒音、明るさ、シーツのしわ等の環境の確認、整備を声掛けしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には薬についての理解を深める様、常時注意喚起しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様お一人お一人の「快」とはホームの命題だと認識し、少しでも寄り添う努力が基本姿勢だと考えます。		

グループホーム かわしも公園 (1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物、野球観戦、競馬場、ご自宅外出等、取り組んでいます。またご家族様のご希望により、外出、外泊等協力しています。	外食、買い物、散歩、初詣、競馬観戦、野球観戦などホームに閉じこもったままでなく、利用者一人ひとりの要望に応えるべく、多くの外出の機会を作っている。それを実現するために、職員配置も工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承の基、本人持参の現金は勿論、ホームで預かっているおこづかいにかんしても、買い物時のレジの支払いは出来る限るご本人に支払って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り行っています。	共用空間は日当たりが良く、明るい空間となっている。それぞれ好きな場所でくつろぐことが可能であり、テーブルを囲んで話しをしたり、ゲームをしたり、テレビ観戦したりなど自由に過ごしている。壁には季節を感じるような写真、絵、飾りつけが施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥や洗面所等に椅子を配置し、思い思いに使って頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の希望はもちろん、職員があれば良い物等のご提案もさせて頂いています。	居室は、それぞれが好みのものを持ち込むことが可能となっている。家族の写真を貼ったり、使い慣れたものを持ち込んだり自分の居場所が確立された空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」をどれだけ長く出来る状態でいられるよう支援する事が、大切だと考え徹底しています。		